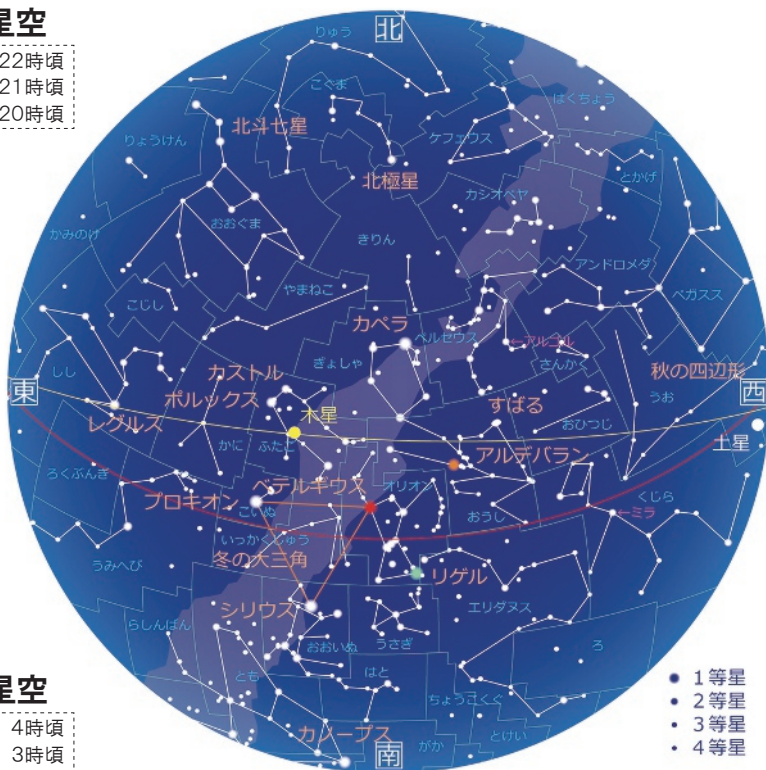


# 星空ガイド 1月16日～2月15日

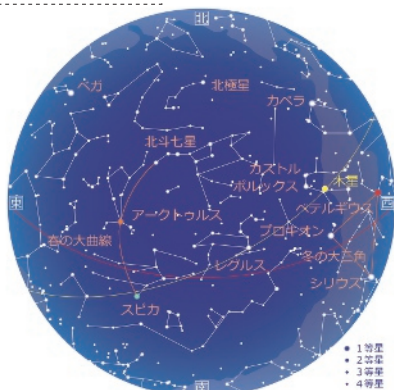
## よいの星空

1月16日22時頃  
2月 1日21時頃  
15日20時頃



## あけの星空

1月16日 4時頃  
2月 1日 3時頃  
15日 2時頃



〔太陽と月の出入り(大阪)〕

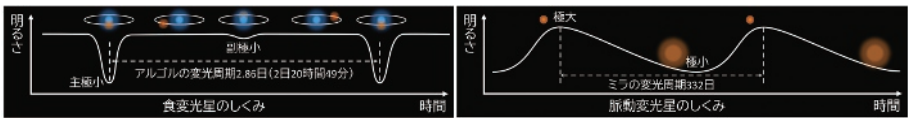
月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
1	16	金	7:04	17:11	5:10	14:31	27.1
	21	水	7:02	17:15	8:32	19:38	2.3
	26	月	7:00	17:20	10:52	--:--	7.3
2	1	日	6:56	17:26	16:39	6:27	13.3
	6	金	6:52	17:31	22:05	9:01	18.3
	11	水	6:47	17:36	2:03	11:36	23.3
	15	日	6:43	17:40	5:25	15:17	27.3

※惑星は2026年2月1日の位置です。

## 変光星～明るさの変わる星～

恒星の寿命は人類と比べてとても長く、短命な星でも数百万年ほどと考えられています。そうした星々は人類の時間スケールでは、ほとんど変化がないと思うかもしれませんが、恒星の明るさを観測してみると、たとえ肉眼であっても大きな変化が分かる恒星があるのです。そうした、明るさが変化する恒星のことを変光星と言います。

代表的な変光星に、ペルセウス座のアルゴルがあります。アルゴルは食変光星という種類の変光星で、二つ(以上)の恒星がお互いを回り合っている連星です。星が横並びになった時には星二つの明るさが合わさって明るく見え、縦並びになった時には星一つ分の明るさになり暗く見えます。アルゴルは普段の明るさが2.1等級ですが、極小時には3時間程度で3.4等級まで急激に暗くなります。つまり、その日のうちに急に見えにくくなってまた見えてくるといったことが起こります。見やすい極小の日時は、1月21日の21時55分、1月24日の18時44分、2月13日の20時29分です。晴れた日の夜空で、短時間の明るさの変化を追ってみるのも良いでしょう。



もう一つ有名な変光星に、くじら座のミラがあります。ミラは、恒星が膨張したり収縮したりすることで明るさが変化する、脈動変光星です。ミラの明るさは極大時が2等級、極小時が10等級と変化は8等級で、一年弱という長い期間をかけて全く見えなくなったり明るく見えたりを繰り返します。3月上旬に極大を迎えると予想されているので、段々と明るくなっていきます。また、くじら座が夜空に昇っている今の季節にミラが極大を迎え、観測するためのタイミングも合っています。アルゴルとミラ、しくみの違う二つの変光星をぜひ見比べてみましょう。

三田村 耕平(科学館学芸スタッフ)

### [こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
1	17	土	土用の入(太陽黄経297°)
	18	日	変光星うみへび座R(3.5~10.9等)極大
	19	月	●新月(5時)
	20	火	大寒(太陽黄経300°)
	22	木	水星が外合
	23	金	夕方に月と土星がならぶ
	26	月	●上弦(14時)
	27	火	月とすばるがならぶ
	29	木	日没直後に水星と金星が接近
	30	金	月が今月最近(7時・365949km)
	31	土	月と木星とカストルとポルックスがならぶ

月	日	曜	主な天文現象など
2	1	日	月とプレセペ星団がならぶ
	2	月	○満月(7時)
	3	火	節分 月とレグルスがならぶ
	4	水	立春(太陽黄経315°)
	8	日	月とスピカがならぶ
	9	月	●下弦(22時)
	11	水	建国記念の日 月が今月最遠(2時・404389km) 明方に月とアンタレスがならぶ